

Media Information

2026 年 10 月 10 日

チャーリー・ブルツ選手、第 9 戦は予選 20 位、決勝 18 位

予選 Q2 進出までもうあと一歩、決勝のパフォーマンスについては一歩前進

10 月 10 日(土)、2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権第 9 戦が静岡県の富士スピードウェイで開催され、TEAM GOH（チームゴウ、代表：池田和広、監督：芳賀美里）の 53 号車をドライブする 20 歳のチャーリー・ブルツ選手は、予選 20 番手から決勝を戦い 19 番手でチェッカー。他車のペナルティにより、正式結果では 18 位となりました。



Rd.	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
9	富士スピードウェイ	41	晴れ	25	35	20	18

※天気、気温、および路温は決勝スタート時

チャーリー選手は午前中の予選 Q1 ではグループ B に出走しました。チームは前日金曜日に行われた 2 回のフリープラクティスを踏まえてセッティングに若干の補正を加えたものの、大きな変更は施さずにチャーリー選手をコースへ送り出しました。前大会から約 2 カ月が経過し季節が大きく進んだこともあって、タイヤのウォームアップには念入りに 3 周を費やしてからアタックに入りましたが、カットラインには 0.3 秒ほど届かずノックアウト。Q2 進出は成りませんでした。

後方 20 番グリッドから挑んだ午後の決勝では、スタートシグナルに対するリアクションタイムで若干のロスが出ましたが、その後のペース自体は悪くなく、タイヤも車も良いという手応えがあったため、10 周でピットウィンドウがオープンした後もステイアウトを選択。アンダーカット組のペースが速かったことを受け、22 周目にピットインを実行となりました。

タイヤ交換後はさらなるペースアップが期待されましたが、実際にはタイヤ交換直前とほとんど変わらないペースにとどまり、随所でペースダウンしたライバルをオーバーテイクすることはできたものの、思うようなパフォーマンスは発揮できずに 19 番手でチェッカーを受け、他車のペナルティによる正式結果は 18 位となりました。

◆ドライバー チャーリー・ブルツ選手 のコメント

「予選では、昨日よりもマシンのフィーリングが改善していましたが、高速域で路面のバンプを通過した際に突然挙動が乱れる症状に苦しみました。特にターン 4 への進入では、この症状によって自信を持って攻めることができませんでした。ただ、それ以外の部分ではマシンのバランスは良く、高速域での挙動の乱れや底突きの問題を解決できれば、Q2 進出を狙える手応えはあります」

「決勝でも同じ問題が発生し、ターン 5 では突然フロントのダウンフォースが大きく増加してコースオフする場面もありました。一方、ファーストスティントのペースは悪くなく、タイヤのグリップも良好で、これまでのレースと比べてデグラデーションも非常に少ない状態でした。しかし、タイヤ交換後は期待していたペースアップが実現せず、燃料を満載したレース序盤の 4 周目に記録したベストラップを、その後一度も更新できませんでした。この原因についても詳しく分析する必要があります」

「今日の戦略自体は良かったと思いますし、マシンには確かなポテンシャルを感じています。ただ、現状ではその性能を安定して引き出すことが難しい状況です。明日に向けては、高速域での挙動とタイヤのパフォーマンスという 2 つの課題を解決し、まずは予選で Q2 に進出することを目指します。簡単ではありませんが、改善できればチャンスはあると信じています。厳しい 1 日でしたが、懸命に作業を続けてくれているチームのみんなに感謝しています。明日も全力でプッシュします」

◆チーフエンジニア 柏木良仁 のコメント

「昨日のフリープラクティスでは、最後のアタックをまとめ切れなかったものの、マシンには一定の手応えがありました。そのため、セットアップ上の問題点を修正する程度にとどめ、大きな変更を加えずに予選に臨みました。マシンのフィーリング自体は悪くありませんでしたが、昨日の走行で十分な自信を持って攻められなかったこともあり、予選でもややマージンを残した走りとなり、Q2 進出には 0.3 秒ほど届きませんでした」

「決勝のスタートでは、シグナルに対する反応が遅れたためポジションを落としましたが、これまで課題だったクラッチ操作から加速に至る一連の動作については、かなり改善が見られました」

「ファーストスティントでは、タイヤのウォームアップも順調で、マシンのバランス、タイヤの状態ともに良好でした。周囲のライバルが早めにピットインする中、チャーリーからもポジティブなフィードバックがあったため、ステイアウトを選択しました。その後、先にタイヤ交換を済ませたライバルのペースが速かったことから、タイヤの使用周回数に差をつけた上で 22 周目にピットインしました。ピット作業で若干のタイムロスがあったものの、フレッシュタイヤによるペースアップを期待していました。しかし、実際には交換前とほぼ変わらないラップタイムにとどまり、ペースが落ちたライバルを何台かオーバーテイクすることはできましたが、ポイント獲得には遠く及びませんでした」

「今日のレースでは、18 番手からスタートした 7 号車がポイントを獲得しています。我々もそのようなレースを実現できるよう、まずは明日の予選で少しでも前のグリッドを確保し、決勝でのポジションアップにつなげたいと思います」

以 上

